別紙3

〈〈第2回長井ダムモニタリング委員会の会議要旨〉〉

長井ダムでは、平成21年度の冬にダムの機能を完成前に確認するための試験湛水を予定しています。その試験湛水に先立ちダム完成後（平成23年度）の自然環境への影響等の調査及び調査結果の分析を一層客観的、科学的に行うために、学識経験者を委員とした「長井ダムモニタリング委員会」を平成20年7月に設立しました。

平成20年7月の、第1回長井ダムモニタリング委員会では、モニタリング計画の内容である調査方法、実施時期について意見を伺い計画の取りまとめを行いました。

第2回目となる今回は、モニタリング計画に基づき行った試験湛水前の調査の中間報告（H20.7～H21.2)として、水環境や動植物、生態系などの調査結果について審議いただきました。その調査内容については、これまでの蓄積データと同様な傾向を示しており、変化は見られないとのご意見を頂きました。また今後行う調査及び試験湛水開始後の調査計画についても、提案内容にて行って良いとのご意見を頂きました。

最後に会議の総括として委員長の山形大学農学部の前川教授より「今後は温暖化の影響も視野に入れ、将来に引き継ぐ環境の保全という観点で議論を進めて行きたい」との言葉で会議を終了しました。

次回、第3回モニタリング委員会は、平成21年12月頃の開催を予定し、試験湛水前のモニタリングの総括を行うこととします。なお本委員会は、平成24年度まで行っていく予定となっており、今後毎年1回の開催を予定しています。